

私立大学研究ブランディング事業 2019年度の進捗状況

学校法人番号	261009	学校法人名	真宗大谷学園		
大学名	大谷大学				
事業名	仏教を基軸とする国際的研究拠点の形成と〈人間学〉の推進				
申請タイプ	タイプB	支援期間	5年	収容定員	2995人
参画組織	文学部・文学研究科・真宗総合研究所・図書館・博物館・東方仏教徒協会				
事業概要	<p>行き過ぎた近代合理化が〈生の意味喪失〉を引き起こしてきた。近現代という時代を反省的に問い返そうとする試みがなされてきたが、環境・人権・生命倫理など根源的問題の克服が急務である。そこで、そのような問題に答え得る仏教の可能性を示す。仏教を中心とする国際的研究拠点を構築し、本学独自の〈人間学〉を推進する。仏教研究の重要性が世界に再認識されるよう戦略的ブランディング事業を展開する。</p>				
①事業目的	<p>今から遡ること約百年、マックス・ウェーバーは近代の合理化が〈生の意味喪失〉を引き起こすという重大な問題を提起した。その後、とくに二つの世界大戦を経て以降、近現代という時代を批判的・反省的に問い返そうとする試みは様々な仕方で行われてきた。しかし現実には、現代産業社会において世俗化はますます進行し、グローバル化した市場経済の増殖のなかに投げ出された人類にとって、環境、人権、生命倫理など〈生の意味喪失〉の問題は一層深刻なものとなっている。加えて、市場原理は大学などのアカデミックな領域にまで浸透し、その影響で、社会に対して実質的・具体的な貢献をなし得ると見なされる応用科学などの実学が偏重され、人文学や理科系の基礎学などは厳しい淘汰の波に洗われている。しかし、〈生の意味喪失〉という根源的な問題に直面し、その克服が急務である状況にあって、人文学とりわけ仏教学のような学問は、その問題に対して直接的に答え得る大きな可能性を有している。</p> <p>そこで、本学は、次の4つを事業の柱として設定する。第1に、本学がこれまでに取り組んできた仏教研究の蓄積をもとに、国際的研究基盤を形成する。第2に、アメリカやヨーロッパやアジアとのあいだで共同研究を推進する。第3に、人的交流を促進する。第4に、〈人類の知的遺産〉である仏教を社会に対して本学独自の〈人間学〉として開いていく。言い換えるなら、仏教の根幹にある〈社会の現実と向き合い、真実を探究し、確固たる生きる拠り所を持って歩む〉という精神に根ざす人文学を、本学独自の〈人間学〉として社会に開いていく。このように、本学は、伝統的な古典文献学に基づく仏教思想研究を柱としながらも、社会学領域や教育学領域などにも貢献することのできる臨床的仏教研究、社会の要請に応えることのできる研究を推進する。そして、この事業を通して、現代社会のなかで人間の確固たる生き方を探求する独立者の育成を使命とする〈人間学〉の大学であるというブランド・イメージを確立する。</p>				
②2019年度の実施目標及び実施計画	<p>I. 研究活動における実施目標及び実施計画</p> <p>【実施目標】</p> <p>○ベトナムへの学術協力事業「日越仏教用語辞典」編纂をスタートさせる</p> <p>【実施計画】</p> <p>①カリフォルニア大学バークレー校東アジア研究所および龍谷大学世界仏教文化研究センターとの協定に基づく「歎異抄の英訳研究ワークショップ」の開催（8月、3月）</p> <p>②エトヴェシ・ロラード大学への日本仏教学講座（集中講義）の提供（3月）</p> <p>③国際シンポジウム「Buddhism in Practice 仏教の実践」成果出版の準備活動</p> <p>④ベトナムへの学術協力事業「日越仏教用語辞典」編纂をスタートさせる</p> <p>⑤中国との北朝仏教共同研究推進のための研究発表</p> <p>II. ブランディングにおける実施目標及び実施計画</p> <p>【実施目標】</p> <p>○一般市民を対象とした公開講座または公開セミナーの開催</p> <p>【実施計画】</p> <p>①記者発表：日越共同事業「日越仏教用語辞典」について日本とベトナムで発表。</p> <p>②The Eastern Buddhist 誌の出版事業の継続（2誌発行）</p> <p>③オープンキャンパスと全国保護者会での研究紹介の継続</p> <p>④一般市民を対象とした公開講座の開催</p> <p>⑤ブランディング戦略で示した数値目標（一部修正目標）の検証</p> <p>【達成基準】</p> <p>2019年度にて研究ブランディング事業が終了となったため、3年間の活動を踏まえて総括を行う予定である。</p>				

<p>③2019年度の事業成果</p>	<p>I. 研究活動における成果 大谷大学における最新の仏教研究を真宗総合研究所にて集約・発信し、海外の研究者とのネットワークを構築することができた。 計画① カリフォルニア大学バークレー校東アジア研究所および龍谷大学世界仏教文化研究センターの協定に基づく「歎異抄の英訳研究ワークショップ」を開催(6月、3月) 計画② 2020年2月9日～20日の間の9日間、エトヴェシ・ロラード大学にて日本仏教学講座(集中講義)を開講した。 計画③ 国際シンポジウム「Buddhism in Practice 仏教の実践」成果出版に向けた準備を行った。2020年度中の出版を予定している。 計画④ 連携機関側の諸般の事情により、今後の共同事業の内容について協議を行った。 計画⑤ 2019年7月に中国の学術誌「仏学研究」にて成果発表を公開した。また、9月17日に中国の中国佛学院にて「中国浄土教と親鸞の他力思想」をテーマとした講義を行った。 その他 2019年5月24～26日にかけて台湾にて開催された「第19回国際真宗学会大会」に参加し、パネル発表を行った。また、10月11日には本学を会場として国際シンポジウム「Women and Buddhism: Problems and Prospects」を開催した。</p> <p>II. ブランディングにおける成果 計画② The Eastern Buddhist誌を出版(11月・3月) 計画③ オープンキャンパスにて計3回ブースを出展し、来場者を対象に事業紹介を行った。3日間合計129名のアンケートを回収し、ブースの取り組みの満足度として95.3%の参加者から「良かった」との回答が得られた。 計画④ The Eastern Buddhist公開セミナーを計9回実施した。 計画⑤ 2019年度にて研究ブランディング事業が終了となったため、当初の数値目標を実施年数等の状況に照らし、2020年度に事業成果の検証をする予定である。</p> <p><過年度の事業成果> 2018年度事業進捗 http://www.otani.ac.jp/branding/nab3mq000005topo-att/nab3mq000006i4ky.pdf 2017年度事業進捗 http://www.otani.ac.jp/branding/nab3mq000005topo-att/nab3mq000005toso.pdf</p>
<p>④2019年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p>	<p>(自己点検・評価) 2020年5月開催の「私立大学研究ブランディング事業ワーキングチーム会議」において、自己点検・評価を行った。研究計画のうち①②③⑤については概ね予定通りに実施することができたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、①のうち2020年3月の「歎異抄英訳研究ワークショップ」は短縮した形での開催となり、予定通りの成果を上げることはできなかった。②の「Eastern Buddhist」誌の発行は3月に完了できたが、海外への雑誌発送に支障が出ている。この点については大谷大学学術情報リポジトリで最新号を含めた「Eastern Buddhist」誌PDF版を公開して広報も行っているため、実質的な影響は限られている。計画④については3月に予定されていた公開セミナーを中止にせざるを得なかった。 新型コロナウイルス感染拡大に伴うこれらの課題については、外部評価も踏まえた研究計画の見直しを行った上で今後の取り組みを進めていく必要がある。本事業への補助金は2019年度にて終了となるが、事業の集大成として開催を予定している2021年度の国際シンポジウムについては、プロジェクトチームを発足させ、開催に向けた検討を進めている。</p> <p>※2020年6月開催予定の教育研究支援委員会でも自己点検・評価を行う予定である。</p> <p>(外部評価) 2018年度実施事業について、外部評価委員会(中国・清華大学 聖凱准教授、モンゴル国立大学 ガントヤー教授、中国社会科学院古代史研究所 雷聞教授、ハンガリー・エトヴェシ・ロラード大学 ハマル・イムレ教授)による、外部評価を実施した。評価項目は「研究計画の妥当性」「研究進捗状況」「研究体制」「研究成果」の4項目を設定し、評価は各項目ごとに4段階(Excellent, Good, Average, Poor)で評価を行った。また評価項目以外に「本事業への期待」「本事業への助言」という質問を設定し、コメントをお願いした。</p> <p>研究計画の妥当性 (Excellent 4、Good 0、Average 0、Poor 0) 研究進捗状況 (Excellent 4、Good 0、Average 0、Poor 0) 研究体制 (Excellent 3、Good 1、Average 0、Poor 0) 研究成果 (Excellent 4、Good 0、Average 0、Poor 0)</p> <p><本事業への期待> The project activities are important for the Buddhist culture development in the world, so it would be continued. The project can help young people to realize their own goals by getting acquainted with Buddhist teachings. Through the plan of Otani University, academics and society could be united to reach this goal.</p> <p><本事業への助言> It would be great if the project could pay some attention to the problems the whole people are facing at the current time. Some research on religion and pandemic, Buddhism and medical system, etc, might help. There are many great goals in the branding project, especially the one about nurturing people to be autonomous members of society on the bases of Buddhist teachings. Maybe more activities could be held to achieve this goal, and on a more international level.</p>
<p>⑤2019年度の補助金の使用状況</p>	<p>研究ブランディング事業にかかる経費として、「③2019年度の事業成果」に記載の事業(国際学会での研究発表等の旅費及び参加費、The Eastern Buddhist誌の発行にかかる印刷製本費、委託費、支払手数料及び広告費)に使用した。</p>